

令和7年度 錦小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となれるように、確かな学力と豊かな心、健やかな体をもち、これから社会を力強く生き抜くことができる力をもった、たくましい児童を育成する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童一人一人が、皆とともに生き生きと輝く学校」を目指す。

- ・児童一人一人が夢と希望をもち、明るく活気にあふれる学校
- ・気持ちのよい環境で、温かい心で触れ合うことができ、仲間とともに仲良く学べる学校
- ・家庭・地域と連携を意識的に図る教育活動を推進し、信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、将来への希望と協働する力を育む学校

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進（宇都宮モデル）
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ・互いに認め励ます教育の充実、たくましさの涵養（宮っ子心の教育）
- ・「体力向上」、「学校保健」、「食育」、「安全教育」の推進（元気アップ教育）
- ・社会に参画し協働する力を育む教育活動の推進（宮・未来キャリア教育）
- ・教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

（2）誰もが安心して学び、活力にあふれる学校

- ・不登校対策の充実
- ・いじめを生まない指導・支援の充実
- ・インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進
- ・多様な教育的ニーズへの対応の強化
- ・外国人児童生徒等への適応支援の充実

（3）未来を生き抜く力を養う学校

- ・情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進
- ・持続可能な社会の実現に向けた教育の推進
- ・郷土愛を醸成する教育の推進（宇都宮学）

（4）教職員自らが常に学び続ける学校

- ・教職員の資質・能力の向上
- ・多様な専門性を生かしたチーム力の向上
- ・学校における働き方改革の推進

○（5）地域に目を向け、地域とともに歩む学校

- ・創意ある「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・地域と連携・協働した特色ある学校づくりの推進
- ・地域学校園を生かした学校運営の推進

【陽北地域学校園教育ビジョン】 「学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園」

授業や学校行事等に児童が目標をもって取り組む過程で、教師や児童同士が個々の努力や成長を認めることで自己有用感を育み、より意欲的に学習や生活をしようとする態度を養う。

4 教育課程編成の方針

- (1) 学校教育目標達成のために設定された学校経営の理念及び学校経営の方針、地域学校園の教育ビジョン、今年度の重点目標、今年度の努力点の内容や具体策を踏まえ、全教育課程に意図的・計画的・系統的にその具現化を図るように編成する。
- (2) 児童の学校生活の場として設定している、朝の学習や活動、授業時間（各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動）、休み時間（業間、昼休みを含む）、給食の時間、清掃の時間を基本的な枠組みとして教育課程を編成し、各教育活動相互の関連とその配置のバランスを図り、時数を確保する。
- (3) 実施計画を作成するにあたっては、年間的な枠組みとしての2学期制をもとに、教育内容の設定と授業・教育活動時間相互の有機的な関連（カリキュラムマネジメント）、及び効果的な教育活動の規模等について計画的かつ重点化が図られ、柔軟性をもちながら機能的であり、教育活動全体として一貫性を確保しながら調和のとれた内容となるよう留意し、学校教育目標の達成を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

- ① 学校本来の目的である学習指導の充実（学力向上）を図ることを最優先と位置づけ、新学習指導要領の趣旨を理解して教科担任制などの指導を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業実践及び改善の推進を大きな柱として取り組む。
・教材研究、教材開発などの時間を確保するため、学校での諸活動について、教職員の働き方改革を実践しながら、活動内容・方法を精選・工夫したり、勤務時間等を短縮したりして、少ない労力で最大限の目標が達成できるように業務の効率化を図る。
- ② 「令和の日本型学校教育」や「Society 5.0」の実現を目指して学校と社会が連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実践を進める。
・学校経営方針、具体策、本年度の重点目標の具体的な取組の様子などを、保護者・地域に広く周知していく。各学級での授業など、授業改善の取組を学校だよりやホームページなどを通して積極的に紹介し、保護者・地域住民の教育活動への理解と協力を促す。
- ③ 地域の教育力を生かした教育活動（地域人材や教育資源の活用等）を積極的に展開し、「地域とともに」ある学校づくり」を着実に推進していく。
- ④ 陽北地域学校園の小中一貫教育、地域の教育資源の積極的な活用等により、「学校力」のさらなる向上を図る。

（2）学習指導

○ 単元や題材など内容や時間のまとめを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を積極的、具体的に進める。

- ① 教科担任制を取り入れながら、児童に身に付けさせたい力を明確に認識しておくとともに、授業の目標（めあて・ねらい）を児童自身が設定もしくは確認できるようにし（そこまで児童が身に付いていない場合は教師が明確に示し）、学習計画をもとにした学習の見通しをもたせてから課題解決に取り組ませるようにする。
- ② 思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」や「話合い」活動を充実させる。
特に、国語科を中心に、すべての教科・領域等で言語活動の充実を図り、「書くこと」を意図的に取り入れ、資質・能力の育成を図る。
- ③ 本時の目標や評価規準に基づいたまとめや振り返りを確実に行うことにより、児童に「何を学んだのか」を実感させるとともに、振り返りに対する具体的な言葉かけを行い、学習意欲や主体的に学習する態度等を養う。
- ④ 各教科等のねらいを踏まえ、デジタルの力でリアルな学びを支える学習活動が実現できるよう、1人1台端末をはじめとしたＩＣＴ機器を積極的に活用する。

○ 学びに向かう力等と協働して課題に取り組む態度、読解力の育成を図る。

- ① 授業で実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなどして、主体的に学習に取り組む態度などの学びに向かう力等を育む。また、グループでの学習を適切に取り入れるなどして、多様な人々と互いのよさを理解し、伝え合いながら協働して課題に取り組む態度を養う。
- ② 文章で表された情報を的確に理解したり、正確に読み解いたりして、自分の考えの形成に生かしていくようするため、読書活動を通して語彙力の強化を図るとともに、各教科等の授業において、文章の構成や展開について記述を基に捉える学習、文章を読んで理解したことを基に自分の思いを伝え、考えを深める学習などの充実を図る。

(3) 児童生徒指導

- ① 心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりなどを育成するとともに、これから社会において特に必要となる、多様な他者とともに協働しながら目標に向かって挑戦するたくましさ等を養う。
- ② 学校の実態に即して、いじめをはじめとする問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に向け、教職員の組織的な対応とともに家庭・地域社会・関係機関との連携を強化した取組の充実を図る。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ① 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成するために、自らの健康面や体力面のよさや課題を把握し、自分に応じたためあてを設定し、健康（体力・保健・食育・安全）について進んで活動に取り組むことができる児童の育成を目指す。
- ② 運動に親しもうとする態度や能力のより一層の育成を目指し、児童の発達段階や実態に応じた運動量を確保した授業、外遊びの奨励、休み時間を活用した運動イベントの企画等の工夫（スポーツ委員会主催等）により運動機会を創出することで、運動の日常化を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
1-（1）確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 ①児童の課題意識を高め、授業の目標、学習課題、学習計画を明確にして学習の見通しをもたせる指導 ②児童の課題解決への取組での学習状況の的確な見取りと適切な指導・支援 ③「自分の考えを書く活動」の習慣化と、「説明」「話し合い」活動の充実 2 学業指導による「学びに向かう集団づくり」の推進を行う。 ①安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成 ②コミュニケーション能力育成を意識した授業づくり 3 家庭との連携を推進し、主体的な学習態度の育成や学習習慣の確立を目指す。 ①宿題の適切な分量・内容の検討 ②自主学習の習慣形成の推進 ③個に応じた支援の充実	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> </tr> <tr> <td>87.2</td> <td>94.4</td> <td>83.8</td> </tr> </table> <p>全ての肯定的回答が目標数値を上回った。特に、教職員の肯定的回答が94.4%であり、どの児童も主体的に学習に取り組むことができていると言える。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を学校課題に掲げ、全職員で実践してきた。次年度も、「学びに向かう集団づくり」を行い、発達段階に応じた具体的な指導、小集団学習の効果的な活用やコミュニケーション能力の育成を意識した授業づくりを行い、児童の個人差に対応したきめ細かい指導等に力を入れる。</p> <p>学習習慣の確立には、家庭学習の仕方等指導を行うとともに、家庭と連携しながら行う。</p>	児童	教職員	保護者	87.2	94.4	83.8		
児童	教職員	保護者										
87.2	94.4	83.8										
1-（2）豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	1 「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育を充実させ、心を育む教育の推進を図る。 ① 年計に基づく意図的・計画的指導の実践 ・思いやりの心を育むための重点項目の設定 ・行事等との関連を図った指導の展開 ② 「特別の教科道徳」の指導法の工夫 ・「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業づくりの実践 2 相手の気持ちを考えた気持ちのよい言葉遣いができる児童の育成を推進する。 ①人権教育充実と人権週間の取組の工夫・改善 ②教師の率先垂範による好ましい言語環境の構築	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td>90.0</td> <td>100</td> <td>95.1</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>全ての肯定的回答が目標数値を大きく上回った。昨年度より児童の肯定的回答が1.5ポイント、保護者の肯定的回答が2.5ポイント上がった。「特別の教科道徳」においての「考え、議論する道徳」を目指した授業づくりの実践を通して思いやりの心が育まれている結果と言える。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>思いやりの心を育むために、引き継ぎ年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導を実践するとともに、教師が模範となって好ましい言語環境の構築に努める。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	90.0	100	95.1	100
児童	教職員	保護者	地域住民									
90.0	100	95.1	100									

	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 自尊感情を育み、個性を十分に発揮させるために、児童一人一人のよさを認め励ます教育の充実を図る。</p> <p>①褒めて伸ばす教育の推進 ②自己の成長を振り返る場の設定 ③児童相互に認め合う場の設定 ④将来の社会的自立に向けた指導・支援の充実による自己指導能力の育成</p> <p>2 日々の生活の中で達成感や成就感を味わうことができるよう、個に応じたねらいや活動の設定を工夫する。</p> <p>①挑戦意欲を喚起する課題の設定 ②競い合い高め合う望ましい学級集団づくりの推進</p> <p>3 具体策の更なる充実を目指した取組を行い、家庭への啓発を図る。</p> <p>①学年便りやホームページ等を活用した情報発信 ②学級懇談会の充実</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.8</td> <td>100</td> <td>82.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>全ての肯定的回答が目標数値を上回った。昨年度より教職員の肯定的回答は10ポイント上がったが、保護者の肯定的回答は6.3ポイント下がった。これは、学校では教職員が指導し、粘り強く取り組む姿が見られるが、保護者には、その姿がうまく伝わっていない結果だと考える。</p> <p>【次年度の方針】 児童が将来に対してより明確なビジョンをもてるよう、設定した具体策の更なる充実を図る。</p> <p>引き続き、教職員の研鑽により、競い合い高め合う望ましい学級集団づくりの推進を図るとともに、学年だよりやホームページを活用した情報発信等、今年度の取組を更に充実させ、家庭への啓発を図る。引き続き、「宮・未来キャリアパスポート」の効果的活用も図る。</p>	児童	教職員	保護者	88.8	100	82.1		
児童	教職員	保護者									
88.8	100	82.1									
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力を備えた児童を育成するために「元気アップ教育」の充実を図る。</p> <p>①進んで健康や体力の保持増進に努める児童育成に向けた日常的な体育活動の充実 ・元気っ子体力チェックによる実態把握と改善策検討 ・チャレンジカードを活用した主体的な体力づくりの推進</p> <p>②望ましい食習慣形成に向けた、意図的・計画的な食育の推進 ・給食時の校内放送を活用した食育活動の展開 ・学校栄養士と連携した「食に関する指導」の充実 ・学校保健給食委員会を活用した組織的な取組の推進</p> <p>③安全な社会づくりに貢献できる資質・能力の育成に向けた安全教育の充実 ・特別活動（学級活動・学校行事）の体験的学習の充実 ・各教科等における安全に関する指導の充実</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.4</td> <td>94.4</td> <td>93.3</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>全ての肯定的回答が目標数値を大きく上回った。左記の取組の他に、長期休業中に家庭で行う生活習慣チェックなども効果的であった。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、左記の取組を継続し、更に進んで健康や体力の保持増進に努める児童の育成を目指し、日常的な体育活動のより一層の充実を図る。</p> <p>学校内だけでなく、家庭での自分の健康や安全について振り返ることができるよう、情報を発信したり、取組を積極的に行ったりして、児童や保護者の意識を高められるようにする。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	92.4	94.4	93.3	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
92.4	94.4	93.3	100								

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒児童・教職員の肯定的 回答 80%以上	1 授業で実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなどして、主体的に学習に取り組む態度などの学びに向かう力等を育む。 2 グループでの活動を適切に取り入れるなどして、多様な人々と互いのよさを理解し、伝え合いながら協働して課題に取り組む態度を養う。	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1044 152 1283 226"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> </tr> <tr> <td>91.2</td> <td>94.4</td> </tr> </table> <p>どちらも肯定的回答が目標数値を大きく上回った。更に、児童の肯定的回答は4.9ポイント上がった。徐々にコロナ前の取組もできるようになってきたこと、今年度の学校課題と合わせ、グループ活動も計画的に取り入れ、行った結果と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>日々の生活の中で達成感や成就感を味わうことができるよう、自己肯定感を高めたり自分のよさに気づいたりすることができる課題を設定し、個に応じたねらいや活動を工夫する。</p> <p>また、相手を尊重しよりよい学級を目指す集団づくりを推進する。</p>	児童	教職員	91.2	94.4
児童	教職員						
91.2	94.4						
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やA L Tとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的 回答 80%以上	1 主体的に英語でコミュニケーションしようとする児童の育成に向け、外国語活動の充実を図る。 ①英語のやりとりを中心とした授業実践の推進 ・教材研究の工夫 ・A L Tとの打合せや連携の工夫 ・学習形態の工夫 ②生きた英語に触れる機会の充実 ・A L Tとの交流の場の工夫 ・学校行事等へのA L Tの参加 2 外国語活動に向けた環境整備の推進 ①教材等、備品の管理の工夫 ②校内掲示の工夫	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1044 788 1283 862"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> </tr> <tr> <td>75.6</td> <td>94.4</td> </tr> </table> <p>職員の肯定的回答は目標数値を大きく上回ったが、児童の肯定的回答は目標数値を下回った。活動に意欲的に取り組み楽しんでいる様子は見られるが、英語の力の個人差が大きく、苦手意識をもっている児童も見られる。その結果が数値として表れていると思われる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>新学習指導要領に示された内容をしっかりと指導できるよう、担当教諭と連携を図り進めるとともに、より一層A L Tとの連携を図る。</p> <p>英語を使ってコミュニケーションをしたくなる場面を設定したり児童が目指す姿を具体的に示したりして、指導内容や方法の改善をする。</p> <p>また、生きた英語に触れる場面を増やすため、給食や清掃、休み時間等A L Tと接する時間を設けているが、一部の児童だけでなく学校全体で関わる取組を行う。</p>	児童	教職員	75.6	94.4
児童	教職員						
75.6	94.4						

2-（2） 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるよう、発達段階に応じて郷土に関する学習を推進する。 ①「宇都宮学」を積極的に活用し、郷土理解を深め、愛情を育む指導の工夫 ②特別活動（学校行事等）における体験的な学習の場の設定 ③地域資源の発掘と、効果的活用の推進 2 「百人一首」に親しむことのできる学習の推進 ①高学年国語科での授業実践 ②学級活動での体験的な活動の場の設定 3 「宇都宮学」の保護者向け啓発活動を充実する。 ①学年便りやホームページ等を活用した積極的な情報発信	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>86.4</td> <td>88.9</td> <td>78.6</td> </tr> </table> <p>保護者の肯定的回答は目標数値を下回った。児童・職員の肯定的回答は目標数値を上回った。どちらもポイントが上がり、85%を超える結果であった。LRTの開通や宇都宮学をきっかけに郷土に対する関心が高まったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるよう、発達段階に応じて、各教科での学習を進める。また、総合的な学習の時間に行われる「宇都宮学」も効果的に活用し、郷土に関する学習を推進する。道徳などで取り上げられている郷土に関する学習を推進し、広める。</p> <p>今後も、保護者が児童の成長や学びを感じ取ることができるよう、啓発活動にも力を入れ、授業参観等、学校だよりや学年だより、ホームページ等で積極的に発信する。</p>	児童	教職員	保護者	86.4	88.9	78.6
児童	教職員	保護者								
86.4	88.9	78.6								
A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 情報活用能力の育成を図るために、体系的な情報教育を推進する。 ①意図的・計画的な「情報モラル教育」の実践 ②授業におけるICT機器の効果的な活用 ③プログラミング学習の充実 2 図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。 ①学習・情報センターとしての図書館の利用指導の充実 ②学習ニーズの把握に基づいた関連図書情報の提供 ③市立図書館と連携した授業の実践	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>88.4</td> <td>100</td> <td>85.8</td> </tr> </table> <p>全ての肯定的回答が目標数値を上回った。デジタル機器や図書資料を目的に合わせて効果的に使うという意識が高まってきたと言える。</p> <p>【次年度の方針】 プログラミング学習と関連付けながら、今年度の取組をもとに工夫・改善に努める。</p> <p>また、新学習指導要領に応じた図書の整備を更に進めると共に、専門スタッフと連携を図りながら、図書館の整備を推進する。</p>	児童	教職員	保護者	88.4	100	85.8		
児童	教職員	保護者								
88.4	100	85.8								
A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	1 「持続可能な開発のための教育（ESD）」を推進するため、新カリキュラムの開発・研究に努める。 ①「持続可能な社会」の関連学習洗い出し ・生活科・総合的な学習の時間の活動の見直し ・学校行事や児童会活動の見直し ②児童の実態に応じた具体的な活動内容の検討 2 「持続可能な社会」に対する児童の関心を高めるための特色ある教育活動の実践に努める。 ①授業開発として、ESDの取組事例実践 ②P D C Aサイクルによる新カリキュラム検討 ③「持続可能な社会」の、教職員の意識改革のより一層の推進とSDGs（持続可能な開発目標）の効果的活用	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> </tr> <tr> <td>86.4</td> <td>83.3</td> </tr> </table> <p>両方の肯定的回答が目標数値を上回った。「持続可能な社会」に関連した学習を通して、知識を得たことで関心も高まったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 「持続可能な社会」について、省エネルギー・リサイクル等の取組を通して、学年での実践を重ねながらSDGs（持続可能な開発目標）の一層の効果的活用に努める。</p>	児童	教職員	86.4	83.3				
児童	教職員									
86.4	83.3									

3-（1） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	1 児童一人一人の教育的ニーズを十分に把握して児童理解に努めるとともに、組織を活用した指導の充実を図る。 ①教育相談や保護者との懇談を通じた児童理解の推進 ②校内支援委員会を活用した組織的指導の充実 2 困り感を抱えた児童が自信をもって生活できるよう、かがやきルームにおける指導の充実を図る。 ①ケース会議を活用した指導目標・指導の手立て等の検討	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1049 159 1160 226"> <tr> <td>教職員</td> </tr> <tr> <td>100</td> </tr> </table> <p>B 肯定的回答が目標数値を上回った。更に、昨年度より10ポイント上回った。児童との教育相談や保護者との個人懇談などを通じて、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた児童理解に努めた結果だと考える。いろいろな課題がまだあり、更に充実を図ることが必要である。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、成果の上がっている取組を継続するとともに、校内支援委員会を活用し、組織的に指導の充実を図る。</p> <p>また、今年度同様、かがやきルームを有効活用し、より児童に寄り添った個別指導を行う。</p>	教職員	100						
教職員											
100											
3-（2） いじめ・不登校対策の充実	A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	1 道徳の時間を要とした道徳教育を充実させ、人権感覚の醸成を図る。 ①道徳の時間の指導の工夫 ②授業参観やオープンスクールを活用した授業公開 2 全校体制による組織的・計画的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。 ①いじめゼロ強調月間の取組みの充実 ・「いじめゼロ集会」の内容の工夫・実施と保護者への公開 ・学年便り等を活用した積極的な情報発信 ② 教育相談、Q-U検査等を活用した実態把握の工夫 ③年4回のいじめアンケート実施と結果の効果的活用 ④迅速で適切な対応のための、報告・連絡・相談の徹底	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1049 756 1491 824"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> <td>保護者</td> <td>地域住民</td> </tr> <tr> <td>95.6</td> <td>100</td> <td>83.2</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>B 全ての肯定的回答が目標数値を上回った。児童が主体となって行っているいじめゼロ集会や、人権旬間での標語づくりや絵本の読み聞かせなどが児童に効果的であったと考えられる。</p> <p>また、教育相談でしっかりと話を聞く機会と時間を確保していることや、保護者へのこまめな連絡を行ってきた結果と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 道徳の授業の充実により、人権感覚の醸成を図るとともに、今年度に引き続き、様々な取組を形骸化させることのないよう、更に前年度より効果的になるようホームページ等を利用して、いじめ対策に取り組んでいることを伝えていく。また、いじめゼロ強調月間での各取組や教育相談、Q-U検査等を実施し、全校体制による組織的ないじめ防止策により一層の推進を図る。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	95.6	100	83.2	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
95.6	100	83.2	100								
A 12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導を通して、学級活動の充実を図り、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。 ① 教育相談・Q-U検査の効果的な活用 ②学業指導事例集等の活用 ③教師と児童の協働・共遊の推進 2 学習情報システムやさくら連絡網、日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ①学習情報システムやさくら連絡網や日々の様子の記録等を活用した情報共有 ②別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫	1 学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導を通して、学級活動の充実を図り、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。 ① 教育相談・Q-U検査の効果的な活用 ②学業指導事例集等の活用 ③教師と児童の協働・共遊の推進 2 学習情報システムやさくら連絡網、日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ①学習情報システムやさくら連絡網や日々の様子の記録等を活用した情報共有 ②別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1049 1489 1399 1556"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>91.6</td> <td>100</td> <td>89.4</td> </tr> </table> <p>B 全ての肯定的回答が目標数値を上回った。教職員の賢明な取組の結果と考えられる。しかし、昨年度と比べると、児童・保護者とも下がっている。学校行き渋り等で欠席や遅刻が多い児童がいるため、肯定的回答が下がったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 教育相談やQ-U検査の効果的な活用、学級活動の充実等により、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級づくりに励む。支援や配慮を要する児童に対しては、実態に応じた支援策を工夫し、教職員間の共通理解に基づいた組織的計画的な対応を推進する。</p>	児童	教職員	保護者	91.6	100	89.4		
児童	教職員	保護者									
91.6	100	89.4									

<p>3-（3） 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実</p> <p>3-（4） 多様な教育 的ニーズへ の対応の強 化</p>	<p>A 13 学校は、一人一人 が大切にされ、活気があ り、明るくいきいきとし た雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったとき に相談に乗ってくれたり、 問題を解決しようと したりして、私たちが楽 しく学校生活を送れる ようにしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・ 地域住民の肯定的回 答 80%以上</p>	<p>1 児童会活動等の工夫・改善を通して、 児童の主体的な活動の場を確保し、楽し く、活気あふれる学校づくりを目指す。 ①集会活動・縦割り班活動のもち方の工夫・ 改善 2 日常の指導において、児童が自主性や 主体性を発揮できる場の確保に努める。 ①学級活動の充実による、明るく、活力の ある学級風土づくりの推進 ②体験活動を重視した学習活動の積極的な 導入</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1060 152 1491 229"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td>91.2</td> <td>100</td> <td>88.6</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>B 全ての肯定的回答が目標数値を上回 った。日常の指導に加えて児童会活動や 学校行事などで、感染症に配慮しながら 自主性や主体性を発揮できる場を設定 したり、明るく、活力のある学級風土づ くりに励んだりしていることが効果的 であったと思われる。また、「みんなの 時間」を設定した効果があった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>児童は意欲的に活動していたので、今 後も児童会活動等を精選し、効果が上 がった取組を継続する。また、児童が主 体的に活動できる場を提供する。更に、児 童が活動するための時間を保障する。 地域の人材を積極的に取り入れ、体験 的な学習活動を行うことで、児童が自主 的・主体的に学習に取り組む機会をもつ ことができたので、次年度も継続する。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	91.2	100	88.6	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
91.2	100	88.6	100								
<p>4-（1） 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A 14 教職員は、分か る授業や児童にきめ細 かな指導を行い、学力 向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分か りやすく、一人一人に 丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・教職員・保護者 の肯定的回 答 80%以 上</p>	<p>1 学校課題を中心とした全校体制による 授業研究を通して「分かる・できる授業」 作りを積極的に推進する。 ①単位時間及び単元の指導法の工夫・改善 ・課題提示・発問等の工夫 ・振り返りの場の工夫 ②「一人一研究」実践による指導法の工 夫・改善 2 児童一人一人の学習状況を的確に把握 し、個に応じたきめ細かな指導を充実さ せる。 ①少人数指導やT.Tによる指導の工夫・改 善 ②朝の学習を活用した基礎学力の向上 ③かがやきルームの効果的な活用</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1060 835 1410 911"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> </tr> <tr> <td>92.0</td> <td>100</td> <td>79.0</td> </tr> </table> <p>B 児童・教職員の肯定的回答は、目標数 値を大きく上回っており、十分満足できる 結果と言える。保護者の肯定的回答は 目標数値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>引き続き、教材研究に努め、「分かる・ できる授業」づくりを積極的に推進す る。専門スタッフとの連携を更に強化 し、個に応じた指導の一層の充実を図 る。</p> <p>学校での学習への取組の様子が保護 者と共有できるよう、積極的に発信す る。具体的には、個々の努力が伝わるノ ート指導の徹底や、I C Tを活用して学 習成果を家庭で実演・報告する宿題を課 し、学習の「見える化」を推進する。また、 ホームページや学年だより等で学習 に取り組む児童の様子を発信する。</p>	児童	教職員	保護者	92.0	100	79.0		
児童	教職員	保護者									
92.0	100	79.0									
<p>4-（2） チーム力の 向上</p>	<p>A 15 学校に関わる職 員全員がチームとなり、 協力して業務に取り組 んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全 員がチームとなり、協 力して業務に取り組 んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回 答 80%以上</p>	<p>1 専門スタッフを効果的に活用するた めに、学校内外のコミュニケーション環境 の整備に努める。 ①管理職（副校長）による総合的な連絡調 整の実施 ②業務担当教職員との綿密な打合せの実施 ③各スタッフによる関係教職員への積極的 な情報提供の推進 2 職員会議や打合せの機会を活用し、專 門スタッフとの情報交換を密にする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1060 1522 1171 1576"> <tr> <td>教職員</td> </tr> <tr> <td>100</td> </tr> </table> <p>B 肯定的回答は目標数値を大きく上回 った。学校内外のコミュニケーション環 境の整備に努めた結果と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>校内ボランティア、S C等内外の専門 機関との連携を密にし、多面的な指導を 継続的に実践することで、児童一人一人 の教育的ニーズに応じた適切な支援が 意図的・計画的に展開できるようにす る。</p>	教職員	100						
教職員											
100											

4-（3） 学校における働き方改革の推進	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回 答 80%以上</p>	<p>1 本来の教育活動を効果的に行うため、教職員の働き方改革を推進する。(働き方改革推進委員会を設置)</p> <p>①長時間労働改善のための業務の精選・見直し ②作業の工夫による業務の効率化と分散化の推進 ③リフレッシュデーの実施</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 152 1160 226"> <tr> <td>教職員</td> <td>94.4</td> </tr> </table> <p>B 肯定的回答は目標数値を大きく上回った。働き方推進委員会を設置したことにより、教職員の意見を反映して取り組むことができ、教職員の意識も高まったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 働き方推進委員会により、教職員の業務改善に向けた意識の高揚が図れた。引き続き、業務の効率化に向けて具体策を検討し、実践する。</p>	教職員	94.4						
教職員	94.4										
5-（1） 全市的な学校運営・教育活動の充実	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回 答 80%以上</p>	<p>1 地域学校園共通のねらいに基づいた、学習指導・児童指導を積極的に推進する。 ①ねらいの明確化と共通理解の場の工夫</p> <p>2 学校園研修や児童生徒指導強化連絡会等の機会を通して、相互理解を推進し、指導法の工夫・改善を図る。</p> <p>3 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進する。</p> <p>4 地域学校園の取組についての啓発を積極的に推進する。 ①学校便りやホームページ等を活用した、小中合同あいさつ運動や地域学校園研修の様子等、小中一貫教育に関する情報の積極的な発信</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 601 1491 669"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> <td>保護者</td> <td>地域住民</td> </tr> <tr> <td>84.4</td> <td>94.4</td> <td>85.1</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>B 全ての肯定的回答において目標数値を上回った。宮っ子チャレンジウィークや小中あいさつ運動、小中乗り入れ授業、中学校訪問の実施など、積極的な取組が行われているが、その内容が小中一貫教育の活動と認識されているためだと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 地域学校園のねらいを明確にした上で授業を行う。家庭学習強化週間の継続や中学校からの乗り入れ授業の実施を継続する。</p> <p>学校園研修や児童生徒指導強化連絡会などを通して、児童生徒の共通理解に努める。小中合同のあいさつ運動などの小中が連携した取組を、さくら連絡網やホームページ等を活用して発信する。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	84.4	94.4	85.1	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
84.4	94.4	85.1	100								
5-（2） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-（3） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回 答 80%以上</p>	<p>1 学校の公開や情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。 ①授業参観・懇談会、オープンスクール等による学校公開の推進</p> <p>②ホームページ、学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行</p> <p>2 地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。 ①生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進 ②新たな地域教材開発の推進</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1049 1244 1491 1311"> <tr> <td>児童</td> <td>教職員</td> <td>保護者</td> <td>地域住民</td> </tr> <tr> <td>92.0</td> <td>100</td> <td>89.1</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>B 全ての肯定的回答が目標数値を上回った。学校の公開や地域団体・地域人材を活用した取組を、ホームページや各種便りで積極的に発信・提供したことが評価につながったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 地域の教育力を更に生かせるよう、生活科や総合的な学習の時間等との関連を図った活動を展開し、内容を充実させながら地域学習素材や人材の活用の一層の推進を図る。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	92.0	100	89.1	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
92.0	100	89.1	100								

6-（1） 安全で快適な学校施設整備の推進	A 19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回 答 80%以上	1 児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の美化に努める。 ①縦割り班清掃活動の充実 ・清掃強化週間の有効活用 ②児童会活動や奉仕活動の充実 ③地域協議会と連携した緑化活動や地域清掃の推進 2 安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。 ①日常点検、定期点検等の安全点検の充実 ・関係職員と連携した計画的な修繕の実施	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1049 152 1394 226"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>93.3</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>全ての肯定的回答が目標数値を大きく上回った。各安全対策や修繕等の必要が生じた際の、迅速かつ適切な対応の効果が上がっている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>引き続き、左記の取組を継続し、清掃の縦割り班を作成し、清掃時は無言で集中して取り組むことで、日頃から学校をきれいにしようという意識を高め、環境の美化に努める。</p> <p>また、定期的に行う安全点検に基づき、修繕が必要な場合には迅速な対応を心掛け、児童がより一層安心して生活できる環境を整えていく。</p>	教職員	保護者	地域住民	100	93.3	100		
教職員	保護者	地域住民									
100	93.3	100									
6-（2） 学校のデジタル化推進	A 20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回 答 80%以上	1 情報教育を推進するために、I C T 機器の利用環境整備に努める。 ①1人1台端末の効果的な活用 ②I C T 機器の集中管理の徹底 2 図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。 ①教育課程に即した図書選定の実践 ・図書館と連携した希望図書の有効活用	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1049 736 1171 788"> <tr> <th>教職員</th> </tr> <tr> <td>100</td> </tr> </table> <p>肯定的回答が目標数値を大きく上回った。I C T 機器活用の研修が行われたり、情報の発信がなされたりして、全職員が活用することができたと言える。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>専門スタッフと連携を図り、情報を共有しながら取り組む。</p> <p>また、校内外の研修を通じて、児童に効果的な活用方法を学び、教職員で共有する。校内研修においても、情報伝達ツールを活用し、日頃より効果的なデジタル化に努める。</p>	教職員	100						
教職員											
100											
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回 答 80%以上	1 家庭や地域との連携を一層強化し、あいさつ運動の積極的な推進を図る。 ①児童会を主体としたあいさつ運動の積極的な推進 ②小中一貫教育の取組みとして中学生と共同で行うあいさつ運動の推進 2 あいさつに関する取組みとその成果や課題を積極的に情報発信し、家庭及び地域との連携を図る。 ①学年便り等を活用した積極的な情報発信 ・実施前の周知と啓発 ・実施直後の取組み状況の報告	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1049 1230 1491 1282"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td>89.2</td> <td>89.2</td> <td>89.1</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>全ての肯定的回答が目標数値を上回った。しかし、教職員や保護者の数値が昨年度より若干下がっている。必要に応じて指導をしているが、児童があいさつの必要性（重要性）を十分理解していないことが考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>児童会を主としたあいさつ運動について、今後も工夫をした取組を進め、場に応じたあいさつの仕方を呼びかける。また、会釈もあいさつの一環だと伝えていく。あいさつに関する取組とその成果や課題を、学校だより等を活用して積極的に情報発信し、家庭との連携を図るとともに、あいさつの重要さの指導を工夫していくことで改善を図る。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	89.2	89.2	89.1	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
89.2	89.2	89.1	100								

	<p>B 2 児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 基本的な生活習慣育成の徹底を図るとともに、規範意識を高める指導の充実を図る。</p> <p>①「錦の生活」に基づく組織的な指導の充実 ・年間2回の振り返りと自己評価結果の効果的な活用</p> <p>②生活当番組織を活用した日常生活指導充実 ・朝の会や帰りの会を活用した児童の主体的な活動の推進</p> <p>2 地域学校園統一のきまりを意識した学習指導・生活指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.4</td><td>94.4</td><td>93.2</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>B 全ての肯定的回答が目標数値を大きく上回った。しかし、保護者の数値が2.4ポイント上がったが、児童の数値は2.4ポイント下がっている。廊下を走ったり、学校生活で必要なルールが守られていなかつたりすることが要因と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 「錦の生活」を、より児童の学校生活に即したものにし、左記の主な具体的な取組を一層充実させる。また、「錦の生活」を、児童会を中心に見直しを行う。更に、当番になる教職員一人ひとりの意識を高め、共通理解を基に各々が責任をもつて取り組む。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	90.4	94.4	93.2	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
90.4	94.4	93.2	100								
陽北地域学校園共通	<p>B 3 児童は、進んで運動をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、進んで運動している。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 児童が各運動領域で目標とする力を身に付けるため、全学年が「準備運動サーキット」に取り組み、モジュール型の補強運動を実施する</p> <p>2 運動の系統性や動きの特性を考慮し、自己目標の達成を重視した授業づくりの充実を図る。</p> <p>3 動きづくりや技能の習得「できる」ことをを目指した授業だけでなく、前提として体の動かし方やうまくなるためのコツが「わかる」授業を展開（ＩＣＴ活用等）する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.6</td><td>94.4</td><td>78.1</td><td>92.3</td></tr> </tbody> </table> <p>B 児童・教職員・地域住民の肯定的回答の目標数値は上回ったが、保護者の肯定的回答の目標数値は下回った。左記の取組に加え、児童会主催の運動遊びなどを実施し、休み時間に体を動かす機会を設けることができた。また、外遊びで使える遊具の充実を図ったことで、外で意欲的に活動する児童が増えた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、運動に親しむことを目的とした大会を児童会が主体となり開催したり、時間や場所などに制限されずに家庭で保護者と児童が一緒にできる運動の紹介などをしたりする。</p> <p>学んだことを休み時間や家庭で実践したいと思える授業の展開やサーキット運動の更なる充実を目指し、児童の課題に即した内容の改善に取り組む。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	85.6	94.4	78.1	92.3
児童	教職員	保護者	地域住民								
85.6	94.4	78.1	92.3								
本校独自	<p>B 4 学校は、読み語りや読書習慣などを実施し、読書の関心を高める取り組みに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、読み語りや『ふれあい読書会』・読書週間などが行われていて、読書に親しむことができる。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 読書指導を充実させ、自ら進んで様々な本に接しようとする児童を育成する。</p> <p>①「ふれあい読書会」の充実</p> <p>②読み語りボランティアとの連携</p> <p>③童話館ボランティアとの連携</p> <p>④「家読のすすめ」の定期的な実践</p> <p>2 年2回（春・秋）の読書週間を活用し、読書意欲を高める催しを工夫して行う。</p> <p>①図書委員会による活動の工夫</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.2</td><td>100</td><td>94.7</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>B 全ての肯定的回答が目標数値を上回った。読書活動が充実していると言える。</p> <p>【次年度の方針】 年2回の読書週間では、多くの児童が読書意欲を高める催しを楽しむ様子が見られた。読書週間期間外においても、運動会等の学校行事に合わせた催しを図書委員会児童や司書教諭を中心に行ってきた。</p> <p>次年度も、読み語りボランティアや童話館ボランティアとの連携を図り、読書に親しむ機会を設けたい。また、「ふれあい読書会」については、学級担任以外の教職員とのふれあいを大切にし、様々な形式での充実を図る。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	85.2	100	94.7	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
85.2	100	94.7	100								

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

学校評価書に設定した24の評価項目のうち、ほとんどの項目で数値指標の目標数値を達成した。昨年度を5ポイント以上上回った項目があったが、5ポイント以上下回った項目もいくつかある。昨年度、目標数値を達成できなかった2つの評価項目は今年度も達成できなかったが、どちらもポイントが伸びた。

【目指す児童の姿（評価項目：A 1～9・B 1, 2）】

- ・A 1 「主体的に学習に取り組む」からA 9 「持続可能な社会」について、児童・教職員・保護者・地域住民全てにおいて多くの項目が、目標数値より10ポイント近く肯定的回答割合が高く、児童が意欲をもって日々の学習及び健康安全な生活に取り組んでいる状況がうかがえる。
- ・A 6 「英語を使ってコミュニケーションしている」については、児童の肯定的割合が目標数値を下回ったが、昨年度より1.5ポイント伸びた。ALTとの交流などで英語に触れる機会の充実やALTと連携した授業の実践を図る。
- ・A 7 「宇都宮のよさ」については、保護者の目標数値が下回った。総合的な学習や道徳などで取り上げられている郷土に関する学習などの情報を積極的に発信していく。
- ・B 1 「時と場に応じたあいさつ」、B 2 「きまりやマナーの遵守」については児童・教職員・保護者・地域住民の全てで大きく上回っている。更に、児童への働きかけや生活のきまりの見直しなど、児童会を活用しながら、全教職員による組織的な指導に努めていく。

【目指す学校の姿（評価項目：A 10～20）】

- ・ほとんどの評価項目において目標数値を達成している。教職員が児童一人一人の良さを認め励ます指導に取り組み、児童が互いに認め合う学級づくりに努めて明るく生活している状況であることがうかがえる。
- ・A 14 「分かる授業やきめ細やかな指導」については、児童の肯定的回答は90%を超えており、保護者の肯定的回答が目標数値を下回った。「分かる・できる」授業づくりや専門スタッフとの連携を強化し、個に応じた指導の一層の充実を図り、学校での取組の様子を保護者と共有できるよう個々の努力が伝わるノート指導やICTの活用。を通して理解浸透を図る。
- ・A 15 「協力して業務に取り組む」、A 16 「業務の効率化」についても目標数値を大きく上回っているが、引き続き、各種教育活動において、実施後の成果と課題を明確にし、共通理解を十分に図りながら取り組んでいく必要がある。

【本校の特色・課題等（評価項目：B 3, 4）】

- B 3 「進んで運動している」（『陽北地域学校園』共通）については、保護者の肯定的回答が目標数値を達成できなかったが、2.6ポイント伸びた。引き続き、外遊びの奨励やロング昼休みの活用などに取り組んでいく。
- ・B 4 「読書指導」（本校独自）についても児童・教職員・保護者・地域住民全てで高い肯定的回答であった。本校の読書への意識の高さがうかがえる。

7 学校関係者評価

【教職員と保護者の評価に差がある項目について】

- ・学校での取組や児童の活動の様子を学校だよりやホームページ等で発信しているが、更に、学級懇談会で話題にするなど、より理解していただけるように働きかけることが必要である。

【英語を使ったコミュニケーションについて】

- ・英語を使ってコミュニケーションをしたくなる場面を設定したり児童が目指す姿を具体的に示したりして、指導内容や方法の改善をする。普段の生活の中でも英語に触れる機会を増やすためにA L Tの活用を工夫する必要がある。

【時と場に応じたあいさつ、きまりやマナーの遵守について】

- ・児童への働きかけや生活のきまりの見直しなど、児童会を活用して全教職員による組織的な指導に努めていく。また、場に応じたあいさつの仕方や会釈についても推進していく。

【児童の運動の機会について】

- ・業間や昼休みに、スポーツ委員会を中心にスポーツ大会やなわとび練習会などのイベントを企画し、参加児童が楽しく運動ができたことから、児童と保護者の肯定回答の増加につながったと考えられる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿】

○地域学校園で取り組んでいるあいさつ運動や本校独自の取組を児童の主体的活動を取り入れながら推進し、進んであいさつができる児童の育成を目指す。学級懇談会などで話題にしたり各種たよりやホームページを活用したりして家庭や地域に情報発信していく。

- ・外国語の学習では、児童が英語を使ってコミュニケーションをしたくなる場面を設定するなど、指導方法の改善に取り組んでいく。これまで以上にA L Tとの連携を図り、普段の生活の中で英語に触れる活動を工夫し主体的に英語でコミュニケーションしようとする児童の育成を目指す。

- ・業間や昼休みでの外遊びの奨励を継続し、児童会活動や縦割り班活動などを工夫して、体を動かす機会を設け、進んで運動する児童の育成を目指す。

【目指す学校の姿】

- ・教職員が児童一人一人の良さを認め励ます指導に取り組み、児童の自己有用感を高め、児童が互いに認め合い、高め合う学級づくりに努める。

- ・各種教育活動等の成果と課題を明確にしてカリキュラムマネジメントを推進し、新学習指導要領に基づく学校運営及び教育活動を円滑に実施する。

- ・本校の特色である「読書活動」を、児童の主体的活動を一層取り入れながら推進し、特色ある活動として継続する。

- ・街の先生や学校支援ボランティア等の協力による教育活動支援の円滑な実施に努め、地域とともにある学校づくりを推進する。